

地元の農産物は放射線「不検出」を目指します！

私たちは今後も『ひまわり』を中心に、地元のローカル商品に関わる情報はその詳細と共に随時お伝えしていきます。

各生産者と私たちあいコープふくしまの間では、以下の通りの確認内容から、改めて安心して召し上がっていただけるものをお届けします。

【1】なぜ「不検出」なの？

(1) 現在の農産物の汚染は主に「飛来した放射性物質が表面に吸着したもので、『いちご』（横田農園）や『各種トマト』（岡部洋一）など、（※正確には「測定器が反応するほど放射線は入っていない＝限りなくゼロに近い」と言った方がいいかもしれませんが）、「ハウス（室内）栽培」のもの測定結果は放射線「不検出」（0、0ベクレル/kg）です。

※6月18日（土）に行なう『いちご狩り』も安心してご参加下さい。

(2) 『キャベツ』『ブロッコリー』（岩瀬牧場）など、カリウムの多いアブラナ科の野菜はセシウムを良く吸収し「汚染の可能性の高い作物」と言われ、『アスパラ』（安藤節子）を含めそれらは「露地栽培」のものでありますが、昨秋から3月11日以前に作付したものはそれまでの養分で育ったものは、放射線「不検出」の測定結果が出ています。

(3) 「露地栽培」のものに関連して、それらの産地は環境放射能測定値（単位：シーベルト）、及び土壌の放射性物質の汚染量（単位：ベクレル値）も低い測定結果が出ています。

(4) そして「不検出」には各生産者の栽培へのこだわりがあります。

「あぶくまGAP」では、土壌微生物の活性化や環境負荷の軽減、連作障害の克服などに関連して、その全ての農産物に「部分集中施肥」という栽培方法を導入しています。作物の有効な根圏を（汚染された）土壌全体に広げるのではなく、根圏を土壌の一部に奥深く誘導させることにより、そのことが放射性物質の吸収阻害にも結びついています。

(5) 他の生産者を含めて、収穫された農産物は倉庫や冷蔵庫内に保管・保存するなど、出荷までの汚染対策に努めています。

【2】放射線量の検査方法は？

(1) 「あぶくまGAP」では、以下の通りの手順で放射線量の検査を実施し、供給しています。

①農産物を作付している畑に出向き、検査用サンプルを採取する。

②専門の分析機関にて「ゲルマニウムスペクトル分析」を行なう（※セシウムはガンマ線を放出するため、ゲルマニウム半導体検出器を使ったガンマ線スペクトル分析により放射線量を求める）。

③併行して、採取したサンプルを所有の「アラサバイメータ」にて放射線量を計測・記録する。

④②③の検査で問題がなければ、生産者へ出荷指示・収穫作業へ。

⑤出荷のため持ち込まれた農産物から、検査用サンプルを抽出。

⑥所有の「アラサーバイメータ」にて出荷時毎回放射線量を測定。

⑦最終的に“出荷・供給時に放射線量「不検出」であることを確認したものをあいコープへ供給。

(2) 他の生産者にも、「あぶくまGAP」に準じた検査の実施と供給をお願いしています。

(3) 尚、6月9日現在、当面出荷予定の（一部）農産物に関わる測定値は以下の通り「不検出」の結果が出ています。

品目	生産者	産地	測定結果（ベクレル/kg）
『さくらんぼ』	吉田果樹園	須賀川市	不検出（0、0）
『もも』	吉田果樹園	須賀川市	不検出（0、0）
『玉ねぎ』	おおもとグループ	三春町	不検出（0、0）

【3】私たちと地元の生産者が考えていることは？

(1) 私たちは汚染された大地に対し手をこまねいているのではなく、セシウムが土壌深くに浸透する前にその表土を集めて花壇を作るなど、その「心意気」と共に、私たちの機関紙名でもある『ひまわり』による除染（線）のプロジェクトなど、生産者と共に進めていきます。

(2) 私たちはこれまで「誰がどのように作ったか」など、「生産者と組合員の顔が見える関係」こそ大切にしてきました。「放射能汚染とその対策」に関して、それらの点が不明で様々なリスクが潜んでいる「遠方のもの」ではなく、信頼すべき情報の下、むしろ「地元だからこそ安心できる」というものを供給していきます。